

交野・枚方 歴史散策と自然観察

日時：2012年1月6日（金） 10時～15時 天気 晴

集合：JR河内磐船駅 9時50分

行先：交野山、白旗池、国見山

参加者：環境科 38名

2012年最初の活動は、弥生時代や古墳時代の遺跡が残る交野山（こうのさん）の麓から、奈良・平安時代の京都から熊野への古い道「かいがけの道」を上り、交野山、白旗池、国見山などのコースにおいて史跡散策と里山の現状を含めた自然観察を行った。

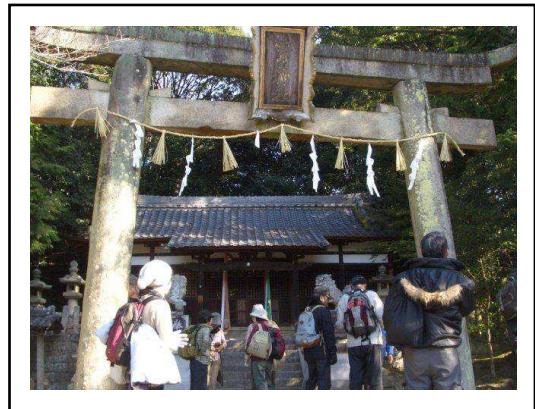
定刻の10時にJR河内磐船駅を出発し、しばらく住宅地を通った後、山裾に向かう。このあたりの道の両側には古い農家の家並みが続き、今も庭先にはまきが積み上げられていた。道路脇には愛宕山や二月堂と彫られた石灯籠が残っていて、風雪に耐えた感じがあった。すぐ近くには国の重要文化財に指定されている300年ほど前の元庄屋の屋敷があるが、時間の都合で持参した写真で見物に代えた。

また、このあたり一帯にはいくつか古墳群があるが、見学できるように整備されてはいない。

集落を過ぎて棚田の終わるあたりにある住吉神社で、今日一日の安全など各自思い思いに祈願した。一部の人には初詣となった。



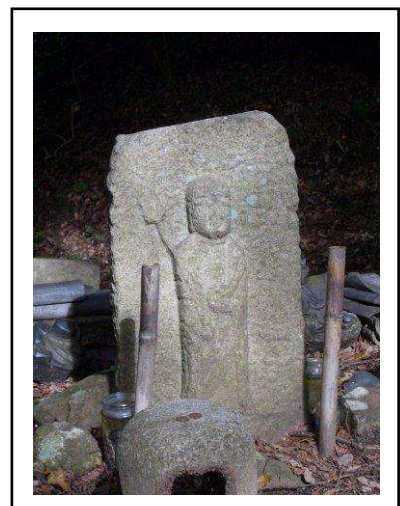
集落の上の棚田付近



住吉神社

神社のすぐ横から登り口の「かいがけの道」（峽崖の道：崖に挟まれた山道の意）に入る。この時期、コナラの落ち葉が敷き詰められていて、乾いた枯葉を踏む音が心地よい。しかし滑りやすいため足元に注意しながら進んだ。体が汗ばみ始めたころ、坂の途中にある「かいがけ地蔵」で小休止した。

ここにはほかにも石仏があり、昔この場所にお堂があったような雰囲気があった。

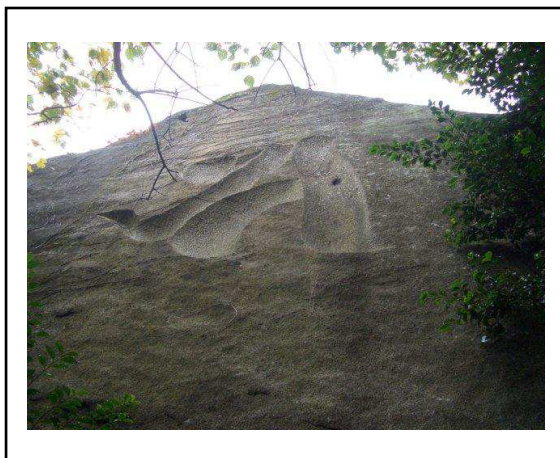


かいがけ地蔵

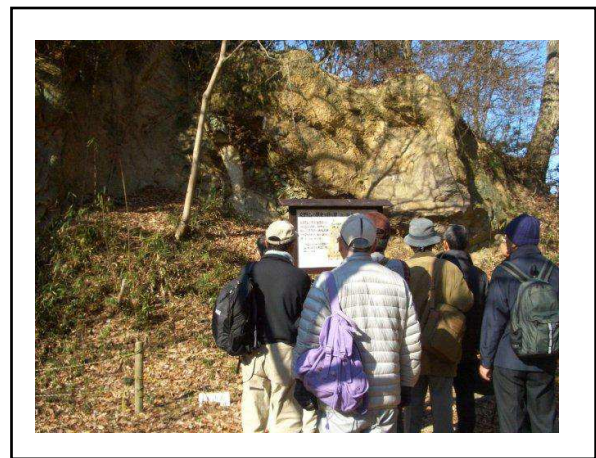
交野山（344m）山頂の大きな岩からは360度の眺望がきく。この日は風が強くなかったためか空気が澄んでいなく、比叡山や六甲山、若草山などは霞んでいた。ここから淀川流域の街並みを広範囲に確認してもらうことができた。大きな岩の下方には大きな梵字が彫られていて、その文字が観音菩薩と関係することから観音岩と呼ばれている。一部の人は藪を分け入って梵字を確認した。



交野山頂上



観音岩の梵字



8000 万年前の地層と説明板

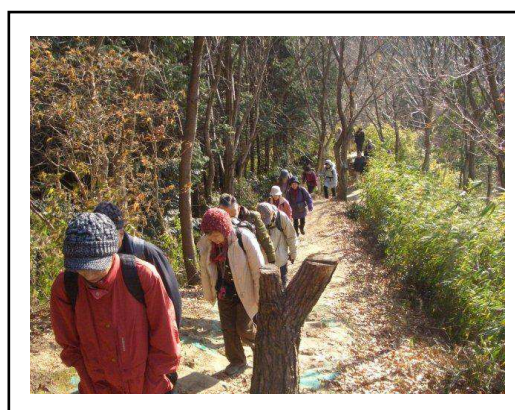
白旗池の手前に 8000 万年前の地層が露出しているところがあり、そこには説明板がある。まだ恐竜が生息していた時代の地層であるが、経過した時間の長さは実感できなかった。

白旗池では1月には例年オシドリが観察できるが、今年は工事のために水が抜かれ、僅かしか残っていなかったため、お目当てのオシドリは雄雌各1羽しかいなかった。昼食後、池の横にある「いきものふれあいセンター」から望遠鏡でオシドリや数羽のマガモを観察した。さらにセンター内に展示してある動植物の標本やはく製、写真などを見て回った。センターの職員からは、つい最近アオ

バトがガラス窓に激突し、そのときに付いた跡を示され、鳥の行為の1つだったとしてそのまま跡を残しているという。



水が抜かれた白旗池



国見山への道

最後に着いた国見山は、戦国時代の城主・津田正信が山城（津田城）を築いたところで、後に織田信長に攻められ山城も焼き払われた。近くの斜面には土塁の跡が残っているという。山頂からは180度の眺望がきく。

国見山からは、なだらかな一般ハイキングコースと急な山道らしいコースに別れて下山し、麓で合流した。JR津田駅には予定より少し早い時刻に到着し、解散した。

報告者：野村。 写真：野村、平山。 企画：野村、清野